

入浴業務を通して 職員が業務改善を自分ごと化できた取組

社会医療法人社団陽正会
ローカルコモンズふちゅう
介護医療院みのり

1. 施設の概要

- 施設種別 : 介護医療院
- 施設名 : 介護医療院みのり
- 所在地 : 広島県府中市元町43番地1
- 開設年 : 令和3年12月1日
- 定員数 : 82名
- 理念/経営方針



- 自宅のような快適な生活空間を提供し、看取りまで安心して過ごしていただける医療・介護サービスの提供
- 入所者の意思及び人格を尊重し、入所者の立場に立ったサービスの提供
- 入所者の個人情報を守秘し、プライバシーを大切にされたサービスの提供
- 入所者が、いつまでも地域社会とつながり、地域の方々がいつでも気軽に立ち寄れる場の提供

2. 取組の経緯・目的

【目的】 よりきめ細かいケアの提供と職員の身体的・精神的負担の軽減

【目指すところ】 介護医療院としての、生活機能の充実

3. これまでに行った取り組み

令和3年度の取組

4月 業務改善・人材育成を図るための介護支援担当を配置

介護業務マニュアル、介護技術チェックシート

目標管理・勤務評価制度の導入⇒仕組みづくり

12月 見守りセンサー（83台）携帯端末（10台）記録用タブレット（4台）

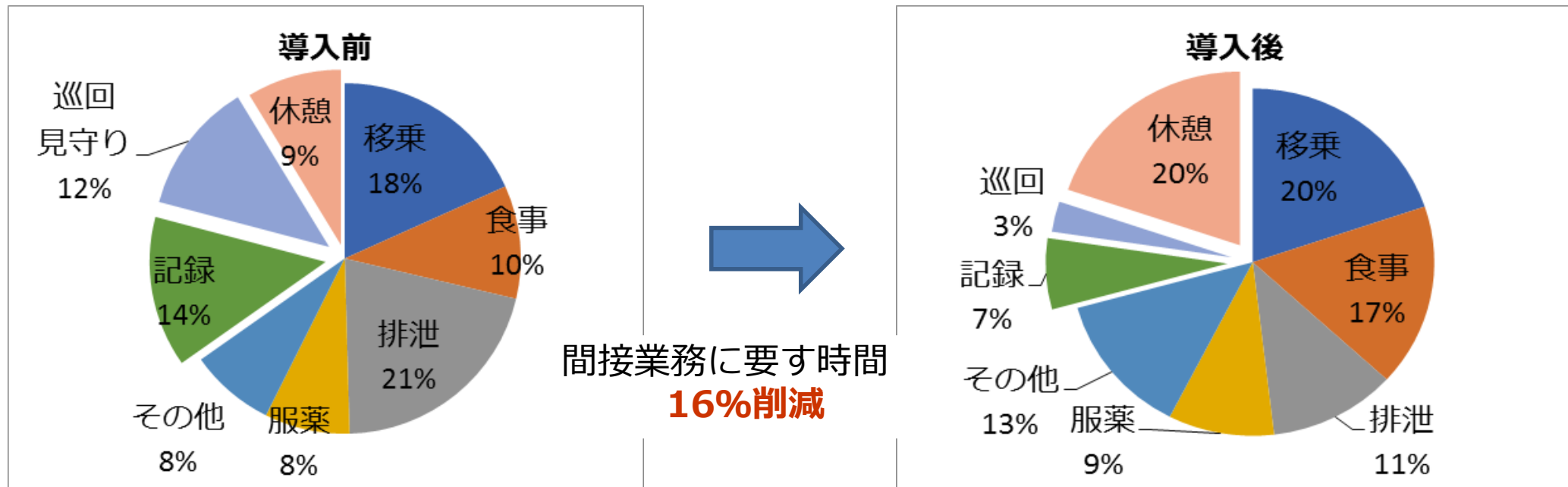
バイタル連携機器導入 ⇒夜勤業務の改善

3. これまでに行った取り組み

令和4年度の取組（1）見守り機器導入後の夜勤業務の検証

■ 導入効果

- ・ 巡視回数の減少 12回 ⇒ 7回 （約1時間15分短縮）
- ・ 記録時間の短縮 （約1時間30分短縮）
- ・ まとまった休憩時間の確保 （断続的な休憩⇒2時間通し）



3. これまでに行った取組

令和4年度の取組（2）業務アドバイザーによる伴走支援での取組

（取組のながれ）

（実施内容）

P	手順 1	改善活動の 準備	<ul style="list-style-type: none">・取組みについての趣旨説明・取組のリーダー選出（現場職員から）・現状把握アンケートや各種評価(タイムステディ)の実施・アンケートや評価結果に基づき現場との対話 プロジェクトチーム内での対話・実施テーマ、内容などの絞り込み・決定
	手順 2	現場の課題を 見える化	
	手順 3	実行計画を 立てる	
D	手順 4	改善活動に 取り組む	<ul style="list-style-type: none">・改善活動の段階的实施・業務工程の棚卸し、テクノロジー活用の検討
C	手順 5	改善活動を 振り返る	<ul style="list-style-type: none">・効果検証・ミーティング実施（良かった点、今後改善する点）
A	手順 6	実行計画を 練りなおす	<ul style="list-style-type: none">・実行計画の見直し（うまくいかなかった点について）

手順1 改善活動の準備

■ 現状の課題感（初回ヒヤリングで見える化されたこと）

- ・今まで生産性向上ガイドラインを読み、見守りセンサーを導入し夜間業務の改善を行った
- ・実際に夜間業務の改善では、定量分析でも減少という結果となった
- ・しかし、これまでの改善はトップダウン(機器導入先行)で行った結果、現場職員が自分たちの取り組み結果や現場の課題を、自分たちのこととして捉えられていない感じがする
- ・そして、現場リーダーは今後の進め方に困っている

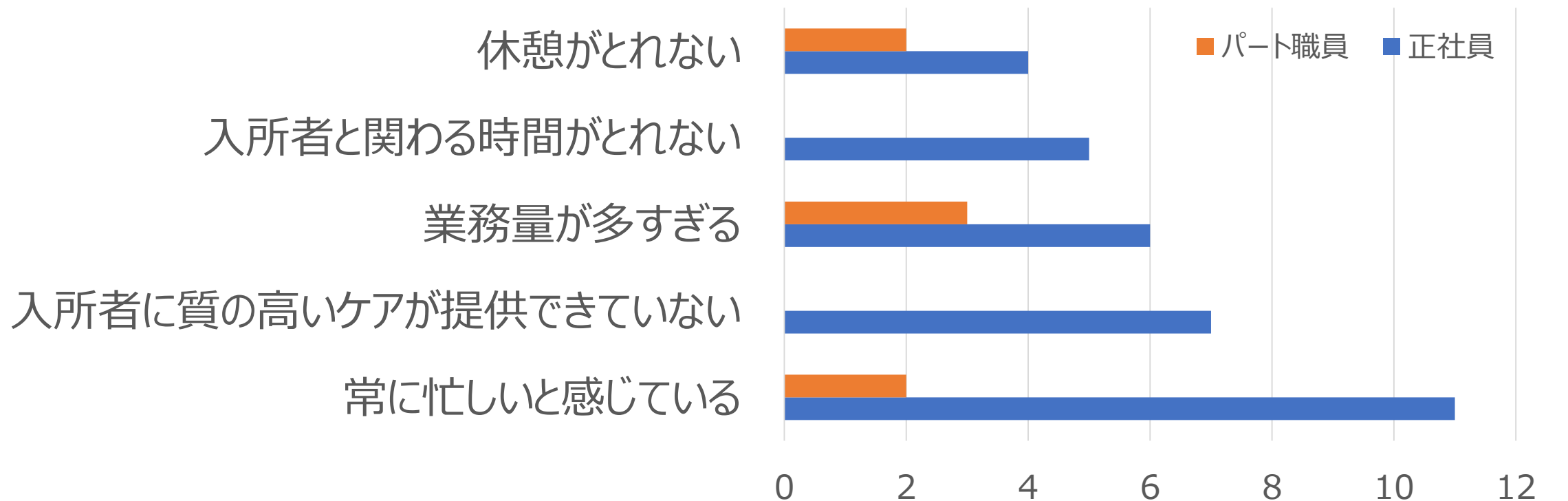
■ 伴走支援の取組で行いたいこと（方向性）

今まで行ってきた業務改善の取組について、一度ここで立ち止まり、職員にとってさらに意味があり、かつ働き甲斐のある日常業務にするために、職員の声をきき、ともに現状整理を行う活動にする

手順2 現場の課題を見える化（現状把握アンケート①） 改善活動前

業務についての課題感

- 業務量が多く、常に忙しいと感じている、休憩がとれないと感じている人が多かった
- 入居者と関わる時間がなく、質の高いケアが提供できていないと感じている人も多かった

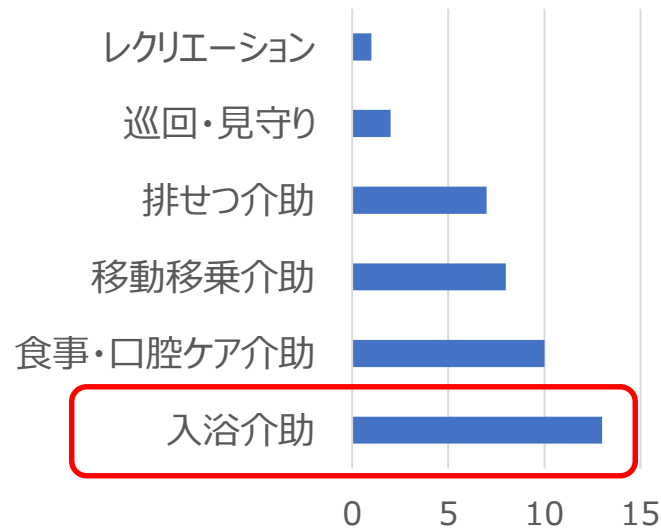


手順2 現場の課題を見える化（現状把握アンケート②） 改善活動前

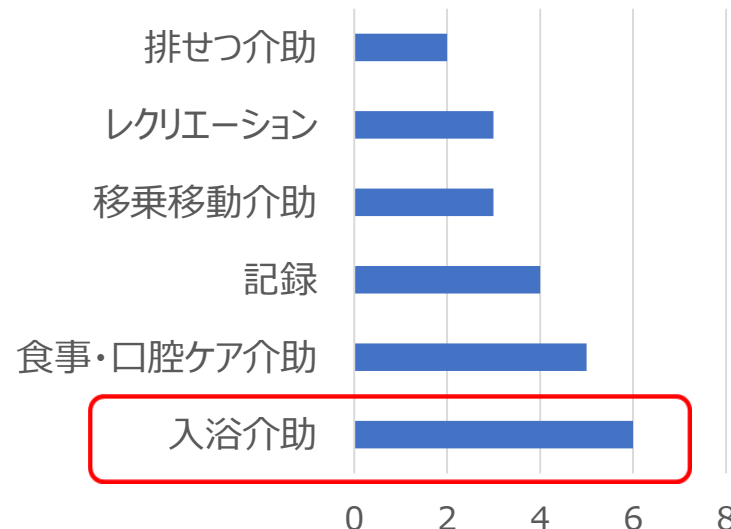
忙しいと思う業務/誰かに偏っている業務/業務手順・ルールが不十分な業務は？

- すべての項目で、入浴介助が一番多かった
- 入浴に時間がかかり休憩に入れない、ゆっくり湯船につかってほしいが時間がない
もっと入所者と関わる時間がほしい(職員の声)

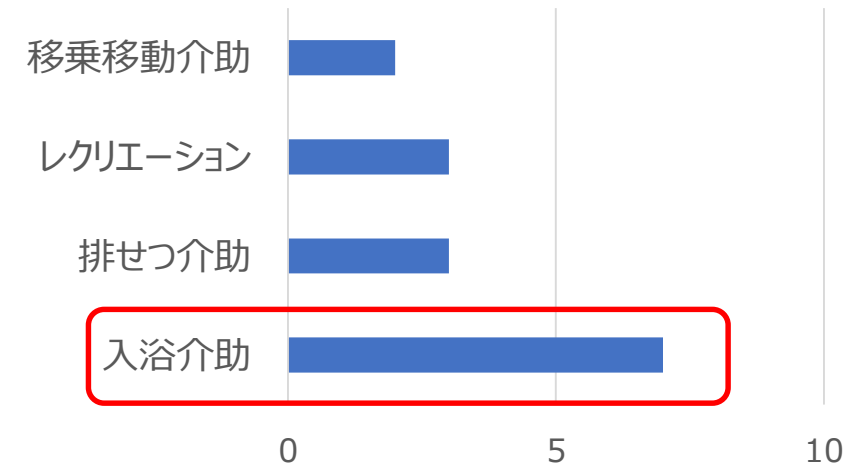
忙しいと思う業務



誰かに偏っている業務



業務手順・ルール等が
不十分な業務



手順2 現場の課題を見える化（取組テーマの決定）

■ 決定した取組テーマ 入浴業務の改善

■ 目指す目的

- 入浴業務の改善活動を行い、現状を良くすること
- 職員主体の改善活動を行い、現場職員が業務改善の必要性を実感すること
- 今後職員が、主体的にテクノロジーの活用を踏まえた業務改善の取組を展開すること

手順3 実行計画を立てる

1. 入浴チェックシートを作成する

2. 入浴チェックシートを運用し、各種業務工程のどこにつまづくことが多いのか、それを改善するためにはどのような基準・ルール・手順があればいいかを対話を通して考える

3. 入浴手順書を作成する

4. 入浴手順書を実際の入浴場面で活用し、気づいたことを出し、そこから新たな工夫を生み出すといったトライ＆アクションを繰り返す

手順4 改善活動に取り組む

1. 入浴業務の状況を確認

入浴手エックシート 月 日

A 大項目	B 中項目	C 小項目	D 基準やルールはありますか? (○ or ×)	E 手順書はありますか? (○ or ×)	F 基準/ルール/手順書は内容で満たされていますか?	G 今の状況の把握状況		H 備考			
						はい	いいえ				
入浴	入浴準備をする	利用者の入室の入り		4	はい	いいえ	はい	いいえ			
		ベッド/ストレッチャーの用意		4	はい	いいえ	はい	いいえ			
		衣類の準備	1	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		靴類の準備	1	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		お着せり、お着せ	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		入浴前の確認	1	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		入浴-沐浴前の移動	廊下移動	廊下移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
				準備完了	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
				廊下への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
				お着せの準備	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
浴室移動行動	浴室の移動	浴室の移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		お着せの準備	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		お着せの確認	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		お着せの入浴準備	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
沐浴開始行動	お着せの準備	お着せの準備	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		お着せの確認	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		お着せの入浴準備	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		お着せの確認	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
沐浴完了行動	お着せの確認	お着せの確認	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		お着せの入浴準備	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		お着せの確認	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		お着せの確認	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
入浴終了までの移動	洗面所/トイレ/シャワー室への移動	洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
入浴終了後の移動	洗面所/トイレ/シャワー室への移動	洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
入浴終了後の確認	洗面所/トイレ/シャワー室への移動	洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
入浴終了後の整理	洗面所/トイレ/シャワー室への移動	洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		
		洗面所/トイレ/シャワー室への移動	3	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		

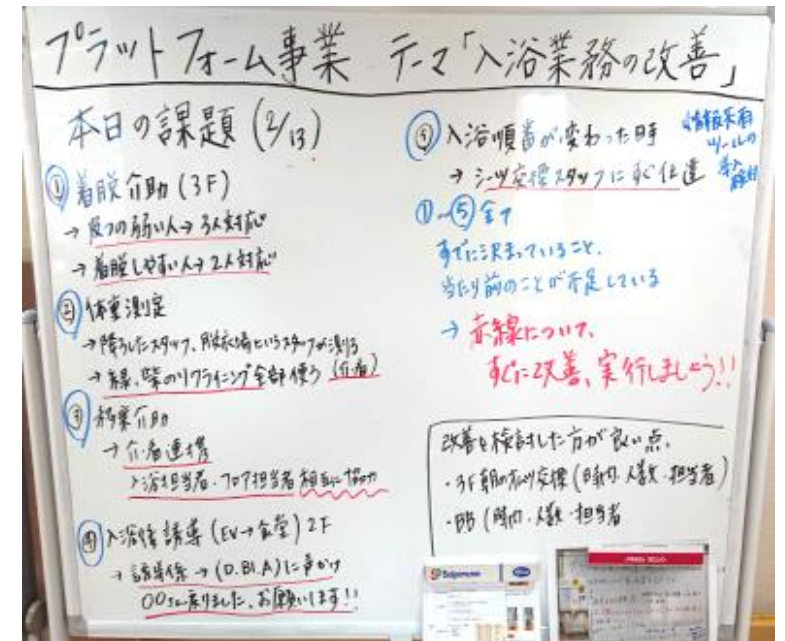
- 今日の入浴業務は全体的にうまくいったと思いますか? はい / いいえ
- 今日は時間に余裕をもちましたか? はい / いいえ
- 今日は気持ちよく業務をこなしましたか? はい / いいえ
- 今日は利用者との関わりを大切にできましたか? はい / いいえ
- 今日は利用者へのアシストを丁寧にすることができましたか? はい / いいえ

- 入浴業務の棚卸を実施、業務工程を詳細に書き出す
- 各工程に対する手順・ルール・基準があるかを確認
- 1週間、既存の手順・ルール・基準どおりに実施できたか、業務工程＝役割をうまく実施することができたかどうかをチェックする
- ほとんどの業務工程でつまずいた形跡があった
- つまずきの多い業務工程も明確になった

手順4 改善活動に取り組む

2. 入浴業務手順書作成

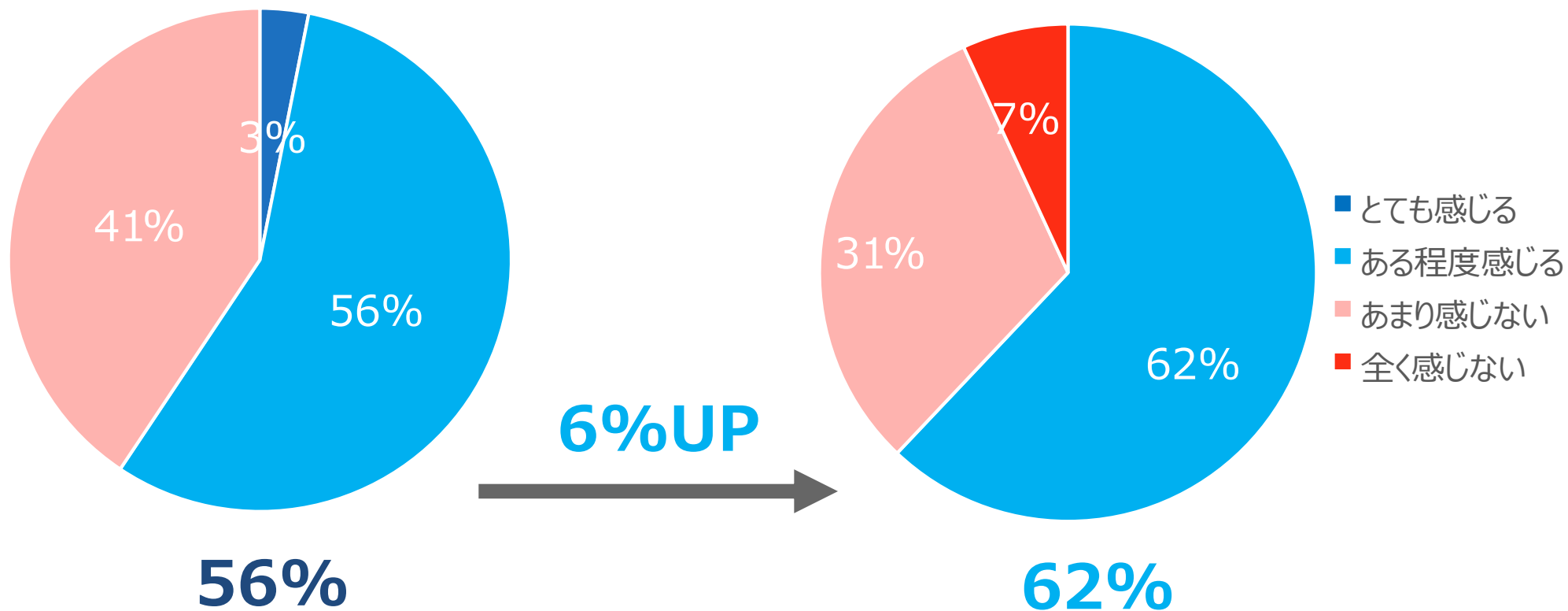
The image shows four columns of printed procedure manuals for bathing services. Each column contains a table with columns for '項目' (Item), '内容' (Content), and '写真' (Photo). The manuals are organized into sections: 1. 入浴前 (Before Bathing), 2. 入浴中 (During Bathing), and 3. 入浴後 (After Bathing). The content includes detailed instructions, safety notes, and photographs of the bathing process and equipment.



入浴手順書は日々実践。職員の気づきはホワイトボードで見える化し共有。対話をとおして新たな工夫を行いブラッシュアップし、現場が使い続けることができるものにしていく

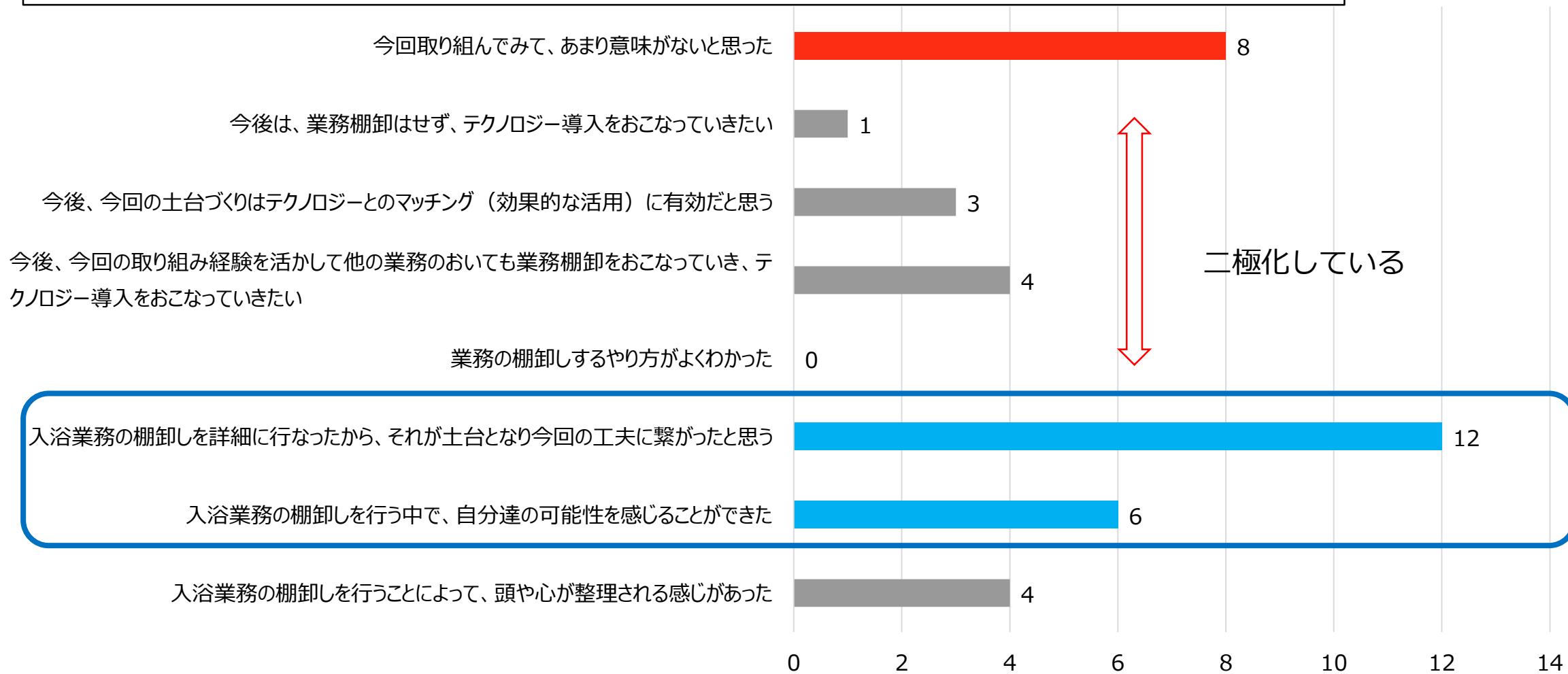
手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

日常仕事をしているの“やりがい”



手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

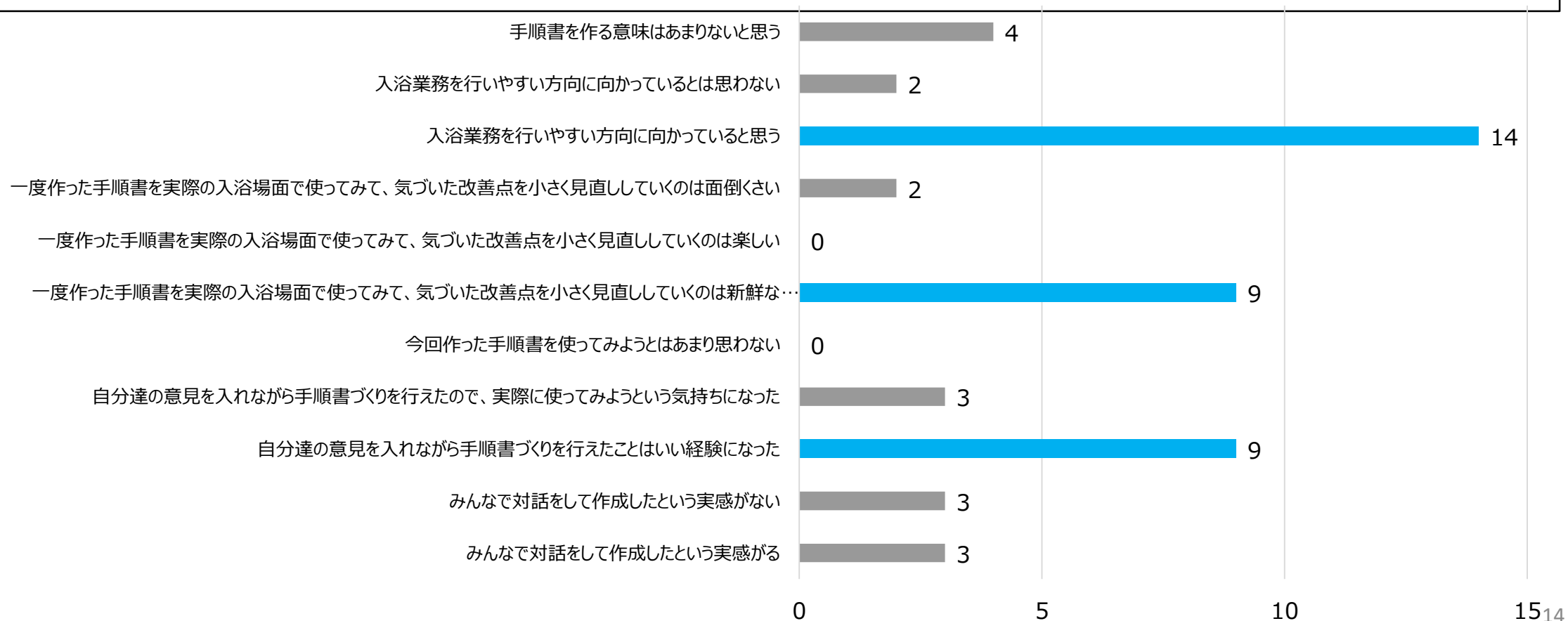
入浴業務の業務棚卸を通して感じたこと



手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

手順書づくりを通して感じたこと

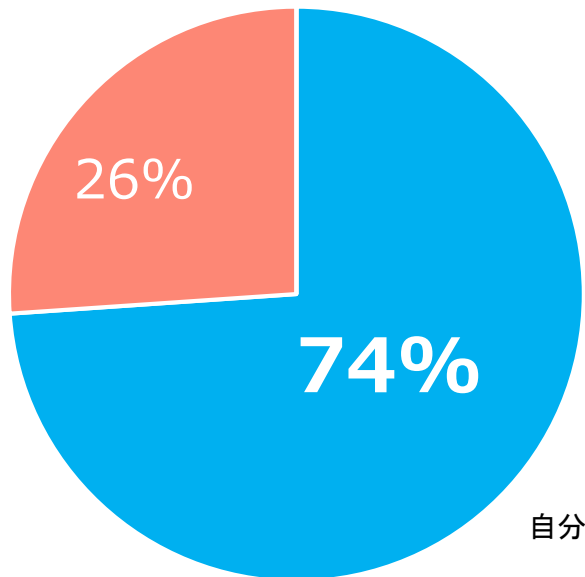
- 「入浴業務が行いやすい方向に向かっていると思う」という回答が多かった
- 手順書を自分たちの手で作りブラッシュアップしていくことが新鮮かついい経験になった



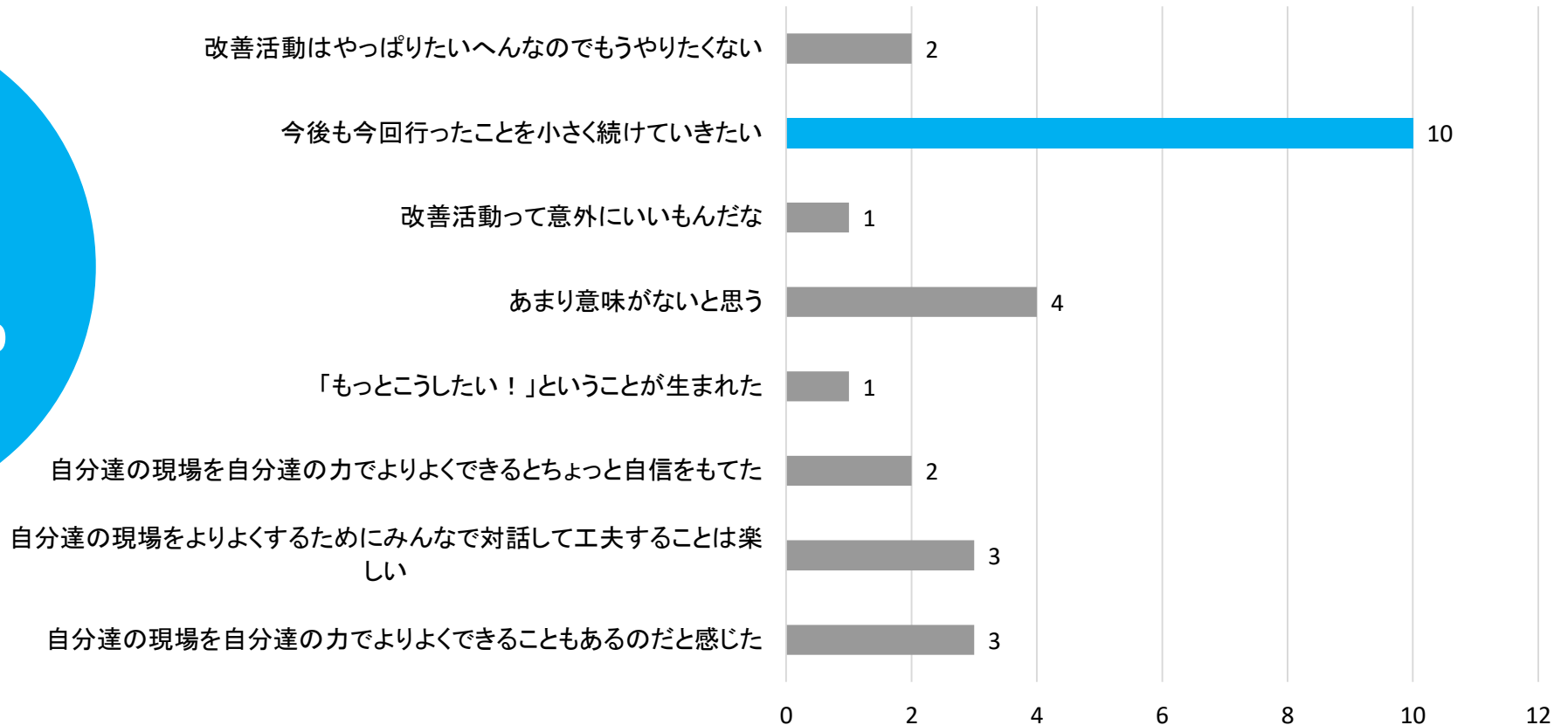
手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

今回入浴業務における改善活動を行っての感想

- 行なってよかったという方が74%
- 今後も継続していきたい方が多かった



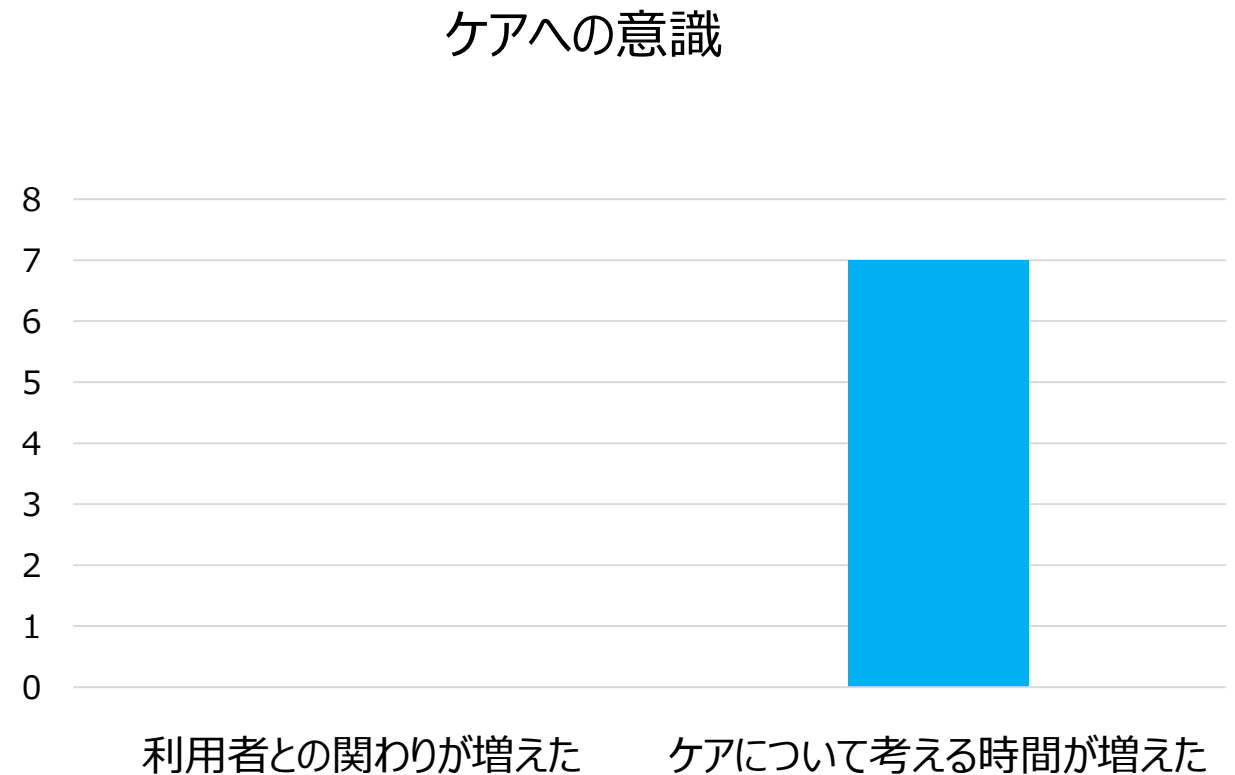
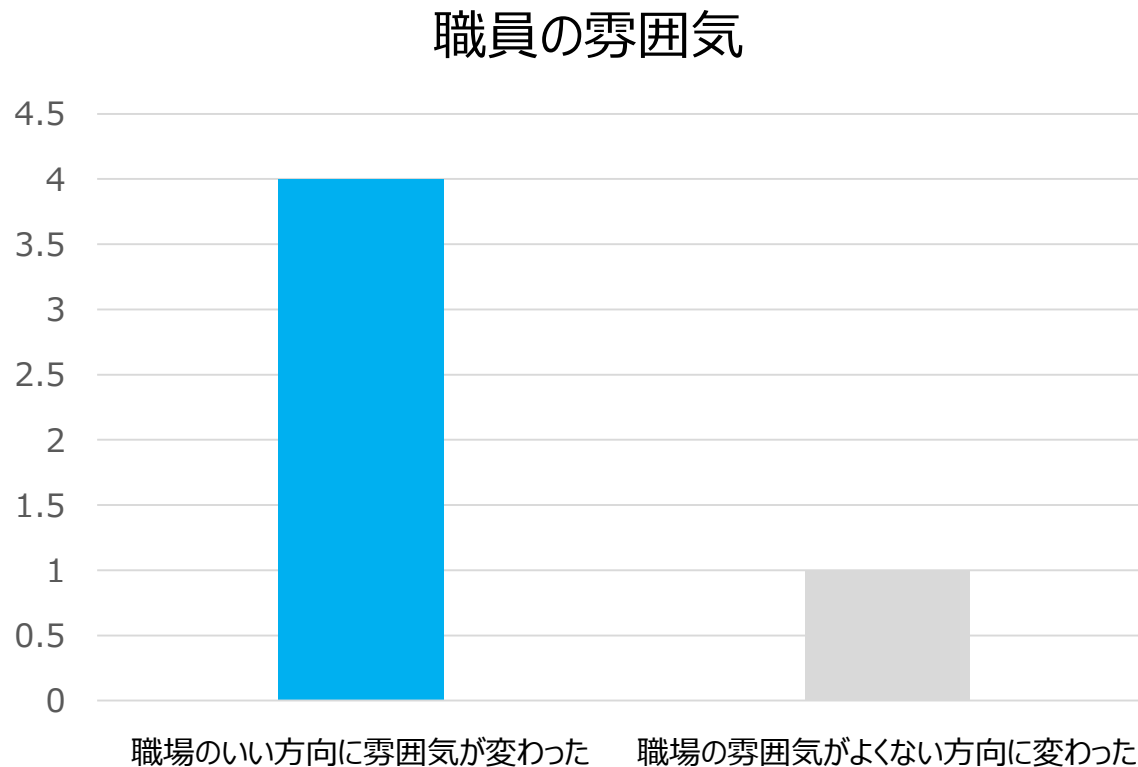
- やってよかった
- よくわからない



手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

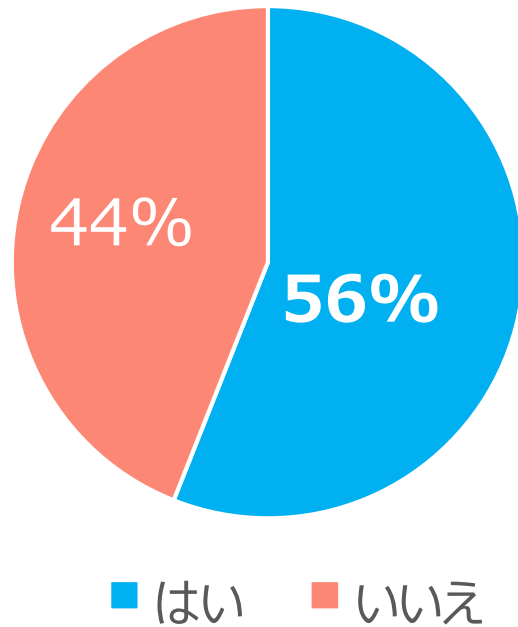
今回入浴業務における改善活動を行っての感想

- 職場の雰囲気がいい方向に変わったと感じる方が多かった
- ケアについて考える時間が増えた方も多かった

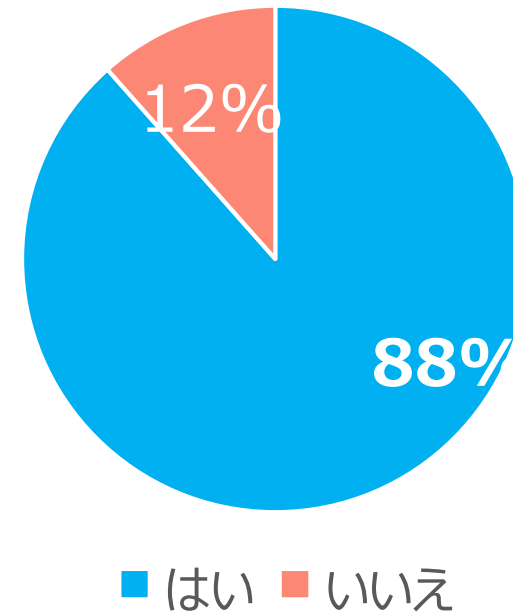


手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

業務棚卸をすることで、自分たちの業務工程に、どのようなICTやロボットを置き換えることができるのか、について検討しやすくなりそうか



今後も継続して、他の業務においても今回のような改善活動（業務棚卸、手順書づくり、ブラッシュアップなど）をみんな対話しながら小さく行っていきたいか



手順5 改善活動を振り返る（プロセスの振り返り）

手順1～4のプロセスで、事業所として

■ 上手くいったこと・工夫したこと

- ホワイトボードを活用し、日々の気づきを共有することで、普段発言が少ない職員も意見を出しやすくなった
- 小さなことでも現場の課題として見える化することで、自分たちの改善課題だという認識がもてた

■ 上手くいかなかったこと・苦労したこと

- 前向きな言葉、表現の意識付け
→ 具体的にこうするともっと良くなる！ もっと効率的になる！ とりあえずやってみよう！
- 取組に消極的な職員の気持ち、意見も聞く

手順6 実行計画を練り直す

- チーム内での反省を元に、次なる実行計画を作成する
 - ・ うまくいったことは次の課題へ
 - ・ うまくいかなかったことは、原因をみんなに対話して実行計画を改めて見直す

■ 伴走支援での取組終了後の今後の方向性

- 入浴業務の工程について、優先順位をつけながら、ひとつひとつ改善していく
- 職員の対話を深め、働きやすい職場は、自分たちでつくるという意識改革、人材育成を行う
- 工程のなかで、どこにテクノロジーを導入するとよいのかについて検討し計画する

4. 令和5年度 新たな取組（入浴業務の改善**継続**）

手順1 改善活動の準備 ・新たに取組リーダーを選出（2名⇒3名）

手順2 現場の課題を見える化（取組テーマの決定）

■リーダーや現場との対話からでた現状の課題感

- ・寝たきり、拘縮がつよい入所者多く、洗身介助に要す時間や人手が多い
- ・洗身介助や移乗介助中のケガ、皮膚剥離の発生が多く、職員の精神的負担がある
- ・施設内での褥瘡発生、また発赤発見後からの悪化・発生が多い

■新たな取組の方向性（取組テーマ：洗身介助の工程改善）

入浴介助機器を検討し、入所者の満足度向上と、褥瘡などの皮膚トラブルの軽減、洗身介助にかかる時間と人員の削減、こすり洗いによるリスクに対する職員の精神的負担の軽減を図る。そして、空いた時間、人員は入所者ケアにあてる。

4. 令和5年度 新たな取組（入浴業務の改善**継続**）

手順3 実行計画を立てる

①6月5日 入浴介助装置(ピュアット)のデモを行う

ピュアットとは⇒極微細気泡のバブルにより、こすり洗いやボディソープ不要で身体を洗浄出来る入浴介助装置

【目指すところ・効果】

- ・肌への負担、皮膚トラブル軽減
- ・介助時間の削減
- ・介助負担の軽減

②6月5日～19日

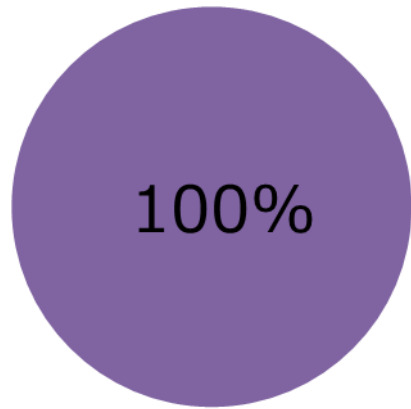
実際に装置を活用した入浴介助シミュレーションを行う
職員アンケートを行い効果を評価



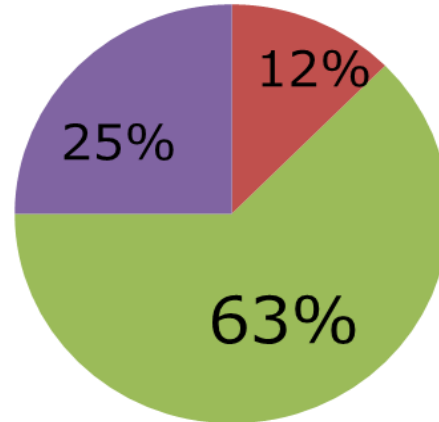
4. 令和5年度 新たな取組（入浴業務の改善**継続**）

■シミュレーション後のアンケート結果

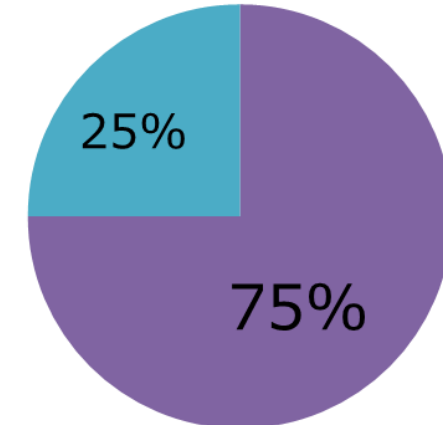
業務時間が短縮された



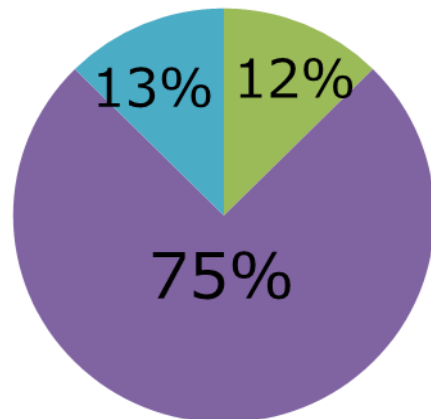
肌の乾燥が軽減された



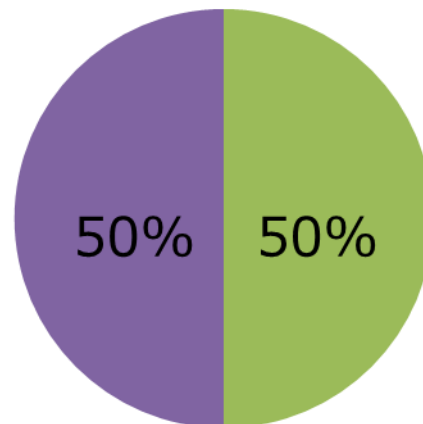
今後も装置を利用し
改善活動を継続したいと思った



肌の負担が軽減された



汚れ落ちの効果が実感できた



- まったく思わない
- 思わない
- わかない
- 思う
- 非常に思う

4. 令和5年度 新たな取組（入浴業務の改善継続）

■ シミュレーション後のアンケート（職員の声）

Q この装置について、洗浄効果ならびに肌への負担軽減の他に、通常の入浴とは異なる効果を感じた点は？

- ・ 入浴介助時間の短縮を感じる事ができた
- ・ こすり洗いをする必要がないので、介助に対する不安が減り、安心して介助ができた
- ・ 洗身介助にかかる時間が減ったので、皮膚観察を意識してするようになった
- ・ また入所者とのコミュニケーション時間が増えてよかった
- ・ 今まで浴槽につかれない入所者も多くいたが、装置を活用することで、ゆっくり湯船にはいる介助の仕方に変えていけそう

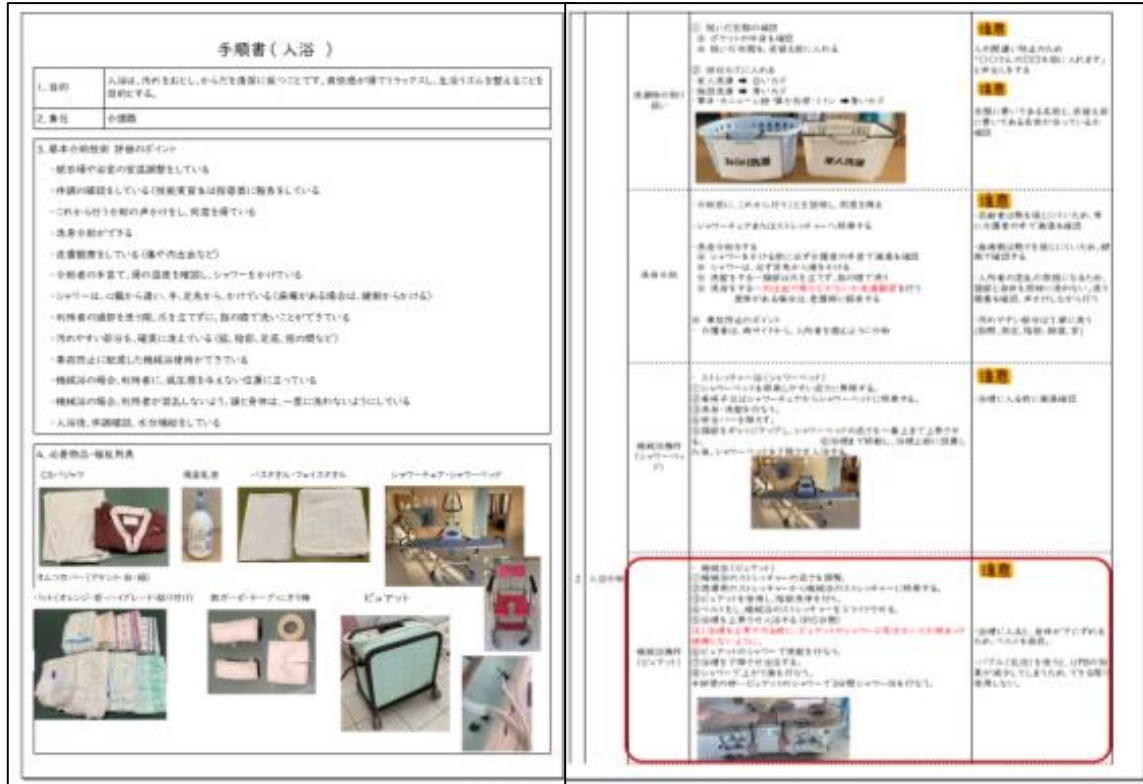
Q 入所者の声

- ・ 気持ちよかった
- ・ 普段浴槽につかる時間が短いので、ゆっくり入れてよかった

4. 令和5年度 新たな取組 (入浴業務の改善継続)

手順4 改善活動に取り組む

- 洗身介助・機械浴操作の工程を詳細に書き出す
- シミュレーションの結果から、既存の基準・ルール・手順、役割を見直し、入浴手順書を新たに作成し直す
- 7月19日 実導入
- 8月～ 日々の入浴業務で実践しながら、気づきは対話をとおしてホワイトボードで共有し、新たな工夫を加えながら、さらにブラッシュアップしていく



入浴介助装置(ピュアット)を活用した入浴手順書

5. まとめ

- 今回の取組をとおして学んだこと、感じたこと、施設としての今後の可能性
 - 実際に現場で働く職員の声を聞き、現場がもっとも課題だと感じていることについて取組むことが、業務改善スピードを加速させると、実感した
 - 業務改善 = ICT導入ではなく、まずはいま自分たちが行っている業務の棚卸しといった、アナログ的な改善を行い、その過程で、どこにテクノロジーを導入するとよいのかについて検討することが、より効果的なテクノロジーの活用につながる感じた
 - 「人がやったほうが良いこと」と「機器に置き換えできること」の区分けを明確にすること、導入したら終わりではなく、導入後も定期的に振り返り、評価し、改善を行うことで、さらに効果がでると、実感した
 - いきなり大きな改善ではなく、小さな改善を繰り返し、ともに達成感を感じることで、自信や、もっとやってみよう、という意欲がでることを感じることもできた
 - このような改善活動を継続することで、その取組に賛同する職員が、1人でも多く増えることが、大きな変革につながる、という施設としての可能性も感じることもできた

5. まとめ

■ 今回の取組をとおして、施設が生み出したこと

- 入浴業務が行いやすい方向に向かっている
手順書を自分たちの手で作りブラッシュアップしていくことがいい経験になった
- また、職場の雰囲気がいい方向に変わった、一体感がでた
今後も対話を行いながら改善活動を継続したい、とおもう前向きな職員が9割いた
- 新たな改善活動では、入浴業務のなかでも、もっとも課題と感じている洗身介助について装置を導入することで、いままでできなかった、してこなかったことに挑戦しよう、自分たちがやりたいケアを実現しよう、という思いを生み出すことができた

「職員が業務改善を自分ごと化できる施設」

ご清聴ありがとうございました。



社会医療法人社団陽正会

介護医療院みのり

住所 広島県府中市元町43番地1

T e l 0847-45-4571

Fax 0847-40-0017

Mail minori@youseikai-grp.jp

<https://www.youseikai-grp.jp/kh/>